

平成27年度（26年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《就学前教育・保育》 夢と希望を育み 豊かな人間性の基礎づくり

基本目標 1 0歳から就学前まで、すべてのこどもの教育・保育の充実

- 実践目標 (1) 発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育の充実
 (2) 自立と協同の態度の育成と人権教育の推進
 (3) 教育保育のための環境づくり

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標に対する推進方針	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
<p>(1)-①幼児の心身の調和のとれた発達の過程を見通した教育・保育過程を編成します。 (1)-②本に出会う環境づくりや、絵本の読み聞かせ活動を充実させ、豊かな学びの基礎となる読書習慣を育みます。 (1)-③保・幼・小・中の交流により、異校種間の職員の間相互理解を深め、小学校への滑らかな接続を図ります。</p> <p>(2)-①多様な体験を通じて豊かな感性を育むことができるよう、園所の環境構成を工夫します。 (2)-②幼児が自ら行動する力、伝え合う力を育てるために、発達段階に応じた指導を組織的、計画的に行います。 (2)-③友だちや様々な人とふれあう活動を通して、道徳性の芽生えを培い、人と関わる力を育てます。</p> <p>(3)-①保育者の資質向上を図るため、教育研修所事業の充実を努めます。 (3)-②PDCAサイクルに基づき、教育・保育活動の評価、改善、向上に努めます。 (3)-③各地域の実情に応じた就学前教育・保育の充実を図るため、幼保一元化を推進します。</p>	<p>(1)-①、(2)-①② 教育内容の充実 ◇保護者の肯定度（幼稚園・公立保育所の保護者アンケートより） ・子どもは幼稚園保育所に行くのを楽しみにしている。 幼99% 保99% ・わが子の成長を感じられる。 幼98% 保95% ・教育方針や子どもの生活や遊びがよくわかる。 幼97% 保99% (1)-②③、(2) ①③ 幼児の豊かな生活の保障 ◇絵本や読書に親しんでいる幼児・家庭の増加（保護者の肯定度）幼稚園・公立保育所の保護者アンケートより ・子どもは絵本が好きである。家族でも絵本や読書に親しんでいる。 幼 96% 保97% ・家庭で絵本の読み聞かせを楽しんでいる。 幼85% 保75% ◇様々な人とのふれあいや交流活動に対する保護者の肯定度 ・子どもは保育所・幼稚園・小学校・中学校・地域との交流を楽しみにしている。 幼97% 保97% ・様々な人との交流は子どもにとって大事な事であると感じている。 幼100% 保97% ◇保・幼・小・中の連携・交流に対する職員の肯定度 ・連携・交流の実施 幼稚園100% 保育所 公立100% 私立57% ・職員の肯定度（連携や交流により相互理解が進んだか） そう思う 幼稚園 93% 保育所（公・私） 67% あまり思わない 幼稚園 7% 保育所 25% （無回答1） (3)-①② 保育者の質の向上と教育・保育活動の評価の実施と改善、向上 ◇教育研修所事業研修会に対する肯定度 ・保育の質の向上につながっているか つながっている 幼稚園100% 保育所 公立100% 私立43% あまり思わない 保育所 私立 57%（なかなか参加できない） ◇園所評価の実施状況と肯定度 ・評価の実施状況 幼稚園、公立保育所は自己評価・関係者評価は100%実施 第三者評価を幼稚園、公立保育所各1か所で実施 私立保育園所 自己評価実施 71% 未実施 29% ・教育・保育の改善、向上につながったか つながることができた 幼稚園93% 保育所公立100私立43% 難しいと感じている 幼稚園 7% 保育所 私立28.5% (3)-③ 幼保一元化の推進 ◇千種中学校区において、平成27年4月開設（分園方式）準備が整ったため、千種幼保一元化講義会は2月で閉じることができた。一宮北中学校区・一宮南中学校区及び戸原地域は地域委員会を継続して協議を進めていくことで決定する。波賀中学校区については中断のままである。</p>	<p>○昨年よりも保護者の肯定度の数値は上がっていることから教育・保育内容の充実に向けて重点目標を設け取り組んできたことが子どもの育ちとして保護者に伝わりつつあることがわかる。今後も保護者との信頼関係を基盤として、職員がやりがいを持って教育・保育に取り組めるよう、支援していきたい。そのためにも研修は重要であるが、教育研修所事業に対する肯定度から、保育所の研修についても参加しやすい環境を考え、市内の子どもたちのために保育の質の向上に努めたい。</p> <p>○各園所で絵本の読み聞かせや絵本に親しむ機会を増やし、環境づくりに努めてきたことで、絵本が好きという子どもや保護者の増加のつながっている。絵本や読書に親しむことは大事と思われるが、家庭での読書習慣につなげていくことが課題である。</p> <p>○パートナーシップ事業の取組により、連携や交流活動が積極的に実施され、子どもの成長にとって重要なものであるという認識は保護者にも職員にも実感できている。 ・今後の課題としては、地域の方や異校種間の連携においても、話し合いによってお互いの共通理解を深めていくことや、継続して続けていくことができるように計画をしていくことが求められる。</p> <p>○26年度は市立保育所、市立幼稚園、それぞれ1か所ずつで第三者評価を受審した。市としても初めての試みであったが、良い評価を受けた点は現場の努力の成果が現れていた。市として課題を示された点について今後改善に向けて検討していきたい。</p> <p>○千種中学校区で、第1号となる「認定こども園」を平成27年4月に開園できることとなった。一宮北中学校区・一宮南中学校区及び戸原地域においても、地域委員会を継続開催し、幼保一元化に向け推進を図っていく。波賀中学校区は新たな地域委員会委員の人選を含め、再開の準備を進める。（山崎西中・山崎東中学校区は保留）今後、民間保育所部会と十分協議していく。</p>	<p>B+</p>	<p>●保育・教育現場は子ども達の生命をあずかっており、出席しやすい日時での日程設定や、例えば視聴覚機器を活用した園所内での研修が可能となるような環境改善も検討してほしい。</p> <p>●千種認定こども園が開園し、運営に関わる誰もが日々試行錯誤の毎日だと思われ、そういう面での研修も必要だと思う。職員が外部研修に出るのではなく、園内で園の実態に即した研修の形とするなどの工夫もしてほしい。</p> <p>●学校教育で取り入れている教員マイスター制度を園所でも導入し、例えば保育マイスターとしてベテランの先生が若い先生に教えてあげられるようなことも考えたらどうか。</p> <p>●公立幼保保護者アンケートの肯定度は年々あがっており、現場の先生方の頑張りがうかがえる。</p> <p>●公立幼保で初めて外部による第三者評価の取組がされたが、良い評価を受けている項目もあり、現場の努力の成果だと思うが、課題とされた点については解消できるよう、事務局含めて取り組んでほしい。</p>	<p>B+</p>

平成27年度（26年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《就学前教育・保育》 夢と希望を育み 豊かな人間性の基礎づくり

基本目標 2 安心して楽しい子育てと健やかにこどもが育つ環境づくり

実践目標 (1) 発達及び生活の連続性に配慮した保育の充実
(2) 幼稚園や保育所が身近に感じられる子育て支援の充実

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①幼児一人一人の健康増進を図る保育活動を展開します。 (1)-②保護者との連携を大切にしながら信頼関係を築き、就労や子育て支援に努めます。 (2)-①子育てに関する情報発信や、地域の子育て支援の役割を果たすよう努めます。 (2)-②「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発活動を促進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の定着を図ります。	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 (1)-①②健やかに子どもが育つ環境づくり ◇健康増進を図る保育活動・・・運動遊び、食育などの取組実施状況 ・（アンケートより）積極的に取り組んだ・・・幼稚園、保育所（公立・私立）100% ・多かった取組（多い順に） ①食育活動 ②早寝早起きを啓発 ③体力づくり ④運動遊びの増加 (2)-①地域の子育て支援の充実②家庭と連携した基本的な生活習慣の定着 ◇地域への情報発信（園だより、ホームページの活用） ・園だより・・・各園所から月1回の園（所）だよりと他にも随時クラスだより、行事だより、給食だよりなどで情報発信をしている。 ・ホームページの活用・・・市のホームページを更新。私立保育園についてはそれぞれのホームページにもリンクしている。 ◇わが子の生活リズムについての保護者の意識 ・早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣のリズムがよくなった 幼稚園90% 保育所93% ・野菜栽培やクッキングを通して、食べ物に関心をもち嫌いな物も食べてみようとしている 幼稚園91% 保育所84%	○平成26年度は、『しーたんチャレンジ2014』事業の一環で、市内幼稚園・保育所4・5歳児の肥満度調査を行った。平成25年度に比べて全体的な数値は下がっており、各園所において運動習慣や体力づくりの取り組みを意識したり生活習慣の改善や食育に取り組んだことは成果として現れるのではないかとということで、平成27年度も引き続き体力づくりや生活習慣の改善に向けた啓発に取り組んでいく。 ○市のホームページから私立保育園のホームページにもアクセスできるようにするなど、情報をより得やすいように改善できた。幼稚園は園区があり地域への発信を園報で行なっているが、在宅の子育て世代への情報提供が課題となっている。地域の方とのコミュニケーションを大事にすることも情報を届けることにつながると考えられる。 ○幼稚園や保育所での取組は保護者へのよい啓発にはなっている。一方で個人差や家庭の意識の差などで生活習慣の改善はすぐにはできないので、年齢に応じた生活習慣がどのようなものか今後も保護者への働きかけを工夫していく必要がある。	B+	●ホームページは充実していると思う。 ●健康増進を図る保育活動として運動遊びや食育に力を入れており、保護者アンケートからも早寝早起き朝ごはんなどの生活リズムが良くなった、また、食育で食べ物に関心をもち、嫌いな食べ物も食べてみようとしているなどの回答率も高く、保護者意識が向上していると思う。引き続き保護者意識の向上に向けて頑張してほしい。	A

基本目標 3 みんなが子育てに関心をもち、見守り、支援する地域社会の構築

実践目標 (1) 社会全体で子どもを育てる環境づくり

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①積極的に情報を提供し、開かれた園所づくりに努めます。 (1)-②地域ボランティアの支援を得るなど、地域の教育力を活かした教育・保育に努めます。 (1)-③関係機関との連携を図り、子どもたちが地域に見守られて育つ環境づくりに努めます。	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 (1)-①積極的な情報提供②③地域に見守られて育つ環境づくり ◇地域ボランティアの支援状況 市内幼稚園、保育所（公立・私立）へのアンケート（計26園所の回答から） ・読書ボランティア・・・22 ・畑作り・・・13 ・自治会・老人クラブ等・・・14 ・地域の団体、サークル・・・12 ・中学生、高校生、大学生・・・17 ・保護者・・・17 ・その他・・・3	○市内各幼稚園、保育所では様々な年齢や団体の方々からボランティアとして支援を受けている。特に高齢者の方々や地域で経験を積まれている方などに優しく声をかけていただいたり触れ合う中で子どもたちは心地よさを味わい、心豊かな育ちが期待される。 ○幼稚園と公立保育所で実施している学校園所関係者評価の中で、地域との連携の方策について参考となるご意見もいただいている。今後も幼稚園・保育所の社会的な役割の1つとして人と人との関わりを通して、地域の活性化にも寄与していくことが求められるので積極的に進めていきたい。 ○第三者評価を受審した中で、ボランティア活動には法令上必要な制約もあるので、ボランティアを受け入れる際の市としての統一した書式と体系化が望まれるとの意見をいただいているので、整備が必要である。	B+	●幼稚園・保育所には多くのボランティアの協力をいただいている。保育所は多くの地域からの児童がいるが、地域の保育所として協力をいただいている。高齢化率も上がっているが、元気な高齢者のパワーをボランティアで発揮し、引き続き活躍いただけるよう期待したい。 ●ボランティアとして園所に行くことは地域の方の活力にもつながっており、双方にとって良いことだと思う。地域の教育力にも頼り、地域住民も活力をもらう、そういった良い関係が続けてほしい。	B+

平成27年度(26年度事業対象) 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 育もうと希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

基本目標 1 宍粟に生き、宍粟を活かす人づくり

- 実践目標 (1) 宍粟の良さを知り、宍粟を愛する子どもの育成
(2) 宍粟で“生きる”キャリア教育の推進
(3) 宍粟につながる進路指導の推進

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標に対する推進方針	◆成果指標(意図や達成度を示す指標) ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
<p>(1)-①小学5年生の自然学校をはじめ、学年に応じた体験学習を宍粟の教育資源を活用して実施します。 (1)-②中学生対象の「出愛ふれ愛こども教室」を拡充し、家族や他者に対する感謝の心を育みます。 (1)-③地域の教育力を活かし、仲間・学校・家庭・郷土への愛を育む道徳教育を推進します。</p> <p>(2)-①小学3年生で環境体験事業、中学2年生で地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施します。 (2)-②中学校では「トライやるアクション」や「ものづくり大学体験学習」により、体験から学ぶキャリア教育を充実します。</p> <p>(3)-①中学2・3年生で進路説明会を実施し、適性に応じた進路選択を支援します。 (3)-②市内県立3高校との連携を強化し、中・高の活性化とスムーズな接続を図ります。</p>	<p>◆学年に応じた体験学習を宍粟の教育資源を活用して実施したか。 ◇自然学校の市内実施率100% ◆中学生対象の「出愛ふれ愛こども教室」を拡充し、家族や他者に対する感謝の心を育んだか。 ◇中学校の「出愛ふれ愛こども教室」実施率100%</p> <p>◆「トライやるアクション」や「ものづくり大学体験学習」により、体験から学ぶキャリア教育を充実したか。 ◇「トライやるアクション」実施率184%(体験延べ人数/生徒数) ◇「ものづくり大学体験学習」実施率100%</p> <p>◆中学2・3年生で進路説明会を実施し、適性に応じた進路選択を支援したか。 ◇中学校2年生での進路指導説明会実施率100%</p>	<p>(1) 宍粟の良さを知り、宍粟を愛する子どもの育成 ・宍粟を愛する子どもたちを育てるため、意識して取り組んでいるが、短期的に成果を求めることは難しい。 ・「出愛ふれ愛こども教室」については平成26年度から拡充し、全中学校区で実施している。中学生が小さなこどもと触れあう中で幼いこどもに対する愛おしさや人のぬくもりを体感する事業であり、学校現場からも大変喜ばれている。</p> <p>(2) 宍粟で“生きる”キャリア教育の推進 ・「トライやるアクション」については年々実施率が増加している。地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の対象外である中学校1年生、3年生でも実施する事業であり、ふるさと宍粟につながるキャリア教育推進のためにも有効である。 ・「ものづくり大学体験学習」についても、すべての中学校で実施しており、日本が誇る「ものづくり」の技能に身近に触れる良い機会となり、生徒が大きな感銘を受けているという評価を学校現場から多く寄せられている。</p> <p>(3) 宍粟につながる進路指導の推進 ・市内3高校との連携を密にするための取組は継続して行っている。新学区制が平成26年度から施行されており、新制度に対応した進路指導の研究を進めていく必要がある。</p>	B+	<p>●昨年の教育講演会でキャリア教育の話を聞き、キャリア教育の意味が理解できた。中学生の時から将来を見越して自分で考えようとする取組でありとても良かった。子ども達にも聞かせてあげてほしいと思った。</p> <p>●トライやる受入事業所にはお世話になっているが、引き続き地域の中での受入事業所を確保し、生徒達にしっかりと体験させてあげてほしいと思う。</p> <p>●自然学校は各校で工夫されている。安全確保など先生の気配りも大変だと思うが、引き続き頑張ってほしい。</p>	B+

基本目標 2 社会の変化に対応する学校づくり

- 実践目標 (1) 義務教育9年間の連続した教育体制の構築
(2) 多様なニーズに応える学習指導の確立
(3) 宍粟市の特性を踏まえた教育環境整備

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標(意図や達成度を示す指標) ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
<p>(1)-①保・幼・小・中の交流授業を実施するなど、異校種間の滑らかな接続を図るため、宍粟型小中一貫教育を推進します。 (1)-②小学5・6年生で兵庫型教科担任制を実施し、学力の向上や小・中学校間の円滑な接続を図ります。</p> <p>(2)-①全国学力学習状況調査の結果分析に基づき、学校と家庭の連携のもと、学力向上に向けた取組を推進します。 (2)-②特別な支援を必要とする児童生徒やその家庭への相談体制を充実させるとともに、サポートファイルを活用して、保・幼・小・中が連続した支援を行います。 (2)-③特別支援教育コーディネーターを核にして、校内の特別支援教育推進体制の充実を図ります。 (2)-④各学校で読書タイムを設けるなど、読書習慣の定着を図ります。 (2)-⑤読書活動推進コーディネーターや読書ボランティア等の協力を得ながら、図書を読み聞かせや学校図書館の整備を行います。 (2)-⑥小学校外国語活動等におけるALTの活用を進めます。 (2)-⑦中学生を対象とした英語スピーチコンテスト、スクイム市派遣国際交流事業を実施します。 (2)-⑧平成25年度実施の情報教育モラルアンケート調査結果の分析を基に、情報リテラシー教育の充実を図ります。</p> <p>(3)-①推進計画に基づき、学校規模適正化を進めるとともに、その検証に努めます。 (3)-②教育施設の計画的整備を進めます。</p>	<p>◆小学5・6年生で兵庫型教科担任制を実施し、学力の向上や小・中学校間の円滑な接続を図ったか。 ◇小学校5・6年生の兵庫型教科担任制実施率58.8%</p> <p>◆読書活動推進コーディネーターや読書ボランティア等の協力を得ながら、図書を読み聞かせや学校図書館の整備を行ったか。 ◇読書活動推進コーディネーターや読書ボランティア等の協力を得て読書ボランティアなどによる読み聞かせ活動実施率72.0% ◇学校図書などによる学校図書館整備実施率56.0% ◆小学校外国語活動等におけるALTの活用を進めたか。 ◇小学校へのALT派遣率100%</p> <p>◆学校規模適正化推進の状況 ・学校規模適正化推進計画に基づく再編後予定校区数10校 《実施の状況》 H27.4.1現在 15校 《今後の予定》 H28.4.1時点 13校 ・懇談実施状況《26年度末時点開催回数》 (地区協議会) 新校開校に向けて必要な事項を協議する組織 ①波賀中学校区:4回(全9回) ②一宮北中学校区:5回(全8回) ※一宮南中学校区:27年4月15日協議会設置 (地域の委員会) 適正化実施の地域の方向性を決定する組織 ①伊水・都多小学校区:2回(全6回) ・児童・生徒・保護者・地域住民の満足度 ★26年4月開校《山崎西小学校》 ◇保護者・児童アンケートの実施 (A: そう思う, B: 概ねそう思う, C: あまり思わない, D: 思わない) ・学校に来ること楽しみか 児童回答 A: 94 B: 37 C: 5 D: 2 保護者回答 A: 71 B: 51 C: 9 D: 0 ・新しい学校になって友達が増えたか 児童回答 A: 120 B: 15 C: 3 D: 0 保護者回答 A: 69 B: 48 C: 13 D: 1 ◇保護者・地域住民代表等による適正化実施の検証委員会3回開催。</p>	<p>(1) 義務教育9年間の連続した教育体制の構築 ・兵庫型教科担任制の実施率は年々向上している。中1ギャップを解消するために大きく役立っている。</p> <p>(2) 多様なニーズに応える学習指導の確立 ・読書ボランティアは全小中学校に在籍しており、活動も活発になってきている。平成26年度は「宍粟市読書ボランティア連絡協議会」の立ち上げについて事務を進めた。平成27年度以降は支援体制整備のためにも組織化を進めていく必要がある。 ・小学校における外国語活動に資するため、各中学校に派遣されているALTをゲストティーチャーとして小学校へも定期的に派遣している。今後有効な連携方法について研究を進めていきたい。</p> <p>(3) 宍粟市の特性を踏まえた教育環境整備 学校規模適正化実施のねらいは、一定の集団規模の中で生活することで児童の「生きる力」をつけることであり、26年4月開校の山崎西小学校で児童・保護者対象にアンケートを実施した結果、次のような効果・課題が見られた。 ◇適正化により児童数が増え、日々の児童の様子からも児童同士の交流が進んでおり、放課後も学校へ来てよく遊んでいる。一方、地域行事への参加者の減少や、通学方法変更(徒歩通学からバス通学へ)によりマイナス面などの課題も見えた。 ◇学校での児童・保護者間の交流は進んでおり、校区拡大により地域を知る事業なども取り組んだ。引き続き積極的に取り組んでいく。 他校区についても、引き続き保護者・地域住民との協議を重ね、学校規模適正化の推進を図り、児童の育成に努めていく。</p>	B-	<p>●小学校から中学校へあがる際の不安解消の一つとして、小学校での教科担任制の経験はとても良いと思うので実施率が上がったらいと思う。</p> <p>●教科担任制で教師が2学年に教えることで、次学年での授業のここ生きてくるなどが直に理解でき、教師にとっても教育のメリットになると思う。教師自身もそういう意識を持って変わっていくことで社会の変化にも対応できると思う。教師は指導を通して児童を理解でき、また一人の先生だけでなく、大勢の先生が関わることで子どもを守れると思うので、先生方にもそういう意識をもってほしい。</p> <p>●学校規模適正化実施後の児童・保護者アンケートの結果は良く、教育環境を考えたも複式学級が解消され、学年での教育が受けられて大変良かったと思う。一方で、校区拡大等による教育上の環境などの課題について、相談先がわからない問題もある。学校に相談すると先生方の児童への関わり時間を削ることになるので、教委事務局の中で窓口設置の検討、設置にはそのことの周知など検討してほしい。</p>	B-

平成27年度（26年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

基本目標 3 教師力を高める学校づくり

実践目標 (1) 自発的研修の推進
(2) 宍粟市教育研修所の機能強化

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①各学校の自主的な研修や教員が主体的に研修する自主研修グループの活動を支援します。 (1)-②学校園所のすぐれた取組を教育研究大会や教育研修所広報誌を通じて広く市民に発信します。 (1)-③宍粟市教員マイスター制度を充実させ、授業づくりのノウハウや指導方法の伝承に努めます。 (2)-①大学との連携により、各年齢層に応じたテーマでライフステージ別研修を実施します。 (2)-②学校園所や教職員のニーズに即した研修を企画します。 (2)-③指導案、教材等をデータベース化し、その共有と活用を促進します。	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 ◆宍粟市教員マイスター制度を充実させ、授業づくりのノウハウや指導方法の伝承に努めたか。 ◇マイスター公開授業回数15回 ◆ライフステージ別研修を充実させたか。 ◇ライフステージ別研修実施回数13回	(1) 自発的研修の推進 ・宍粟市教員マイスターは平成25年度の3教科9名から5教科15名へと拡大した。来年度はさらに9教科へと拡大し、活発な研修・若い教員への支援を拡大させる予定である。 (2) 宍粟市教育研修所の機能強化 ・ライフステージ別研修については回数・内容とも充実してきているが、「ライフステージ」別に研修を企画するという基本構想については来年度以降に修正も検討していく。	B+	●教員マイスター制度について、研修実施にあたって準備や運営など大変な面もあると思うが、とても良いことだと思うので引き続き頑張ってほしい。 ●教育研修所機能の強化に向け、研修企画の基本構想の修正などを検討予定とのことであり、検討を重ねてより良い実のある研修をして、先生方の課題解決のヒント、また資質向上につながるようにしてほしい。	B+

基本目標 4 地域総がかりの学校づくり

実践目標 (1) 家庭・地域と連携した教育活動の充実
(2) 学校現場の裁量拡充と支援体制の構築

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①オープンスクールを計画的に実施するなど、学校を積極的に開き、保護者や地域住民との信頼関係を構築します。 (1)-②地域人材をゲストティーチャーとした体験学習を実施するなど、地域の教育力を活用した教育活動を推進します。 (1)-③PDCAサイクルを活用した学校評価を実施し、学校経営の継続的な改善を図ります。 (2)-①「しそろ学校生き生きプロジェクト事業」を実施し、学校提案型の特色ある学校づくりに取り組みます。 (2)-②すべての学校で業務改善に取り組み、教師が児童生徒と向き合える時間を確保します。	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 ◆オープンスクールを計画的に実施するなど、学校を積極的に開き、保護者や地域住民との信頼関係を構築したか。 ◇オープンスクール実施率100% ◆PDCAサイクルを活用した学校評価を実施し、学校経営の継続的な改善を図ったか。 ◇学校評価（自己評価・関係者評価）実施率100% ◆すべての学校で業務改善に取り組み、教師が児童生徒と向き合える時間を確保したか。 ◇ノー部活デー実施率100% ◇ノー残業デー実施率100% ◇ノー会議デー実施率100%	(1) 家庭・地域と連携した教育活動の充実 ・オープンスクールについてはすべての学校で実施している。 ・学校評価については、自己評価・関係者評価について100%の実施率である。今後は第三者評価の導入についても研究を進めていく。 (2) 学校現場の裁量拡充と支援体制の構築 ・「しそろ学校生き生きプロジェクト事業」を実施し、学校提案型の特色ある学校づくりを支援した。来年度以降も拡大していきたい。 ・勤務時間適正化対策プランは確実に推進している。「ノー部活デー」「ノー残業デー」「ノー会議デー」はすべての学校で実施できているが、市民の方に対する周知は工夫の余地がある。来年度以降、ホームページなども活用していきたい。 ・平成26年度より校務支援ソフトを導入し、出席簿・通知表・指導要録などを電子化した。学校現場からは業務改善に大変大きな効果があったとの評価をいただいている。	A	●学校の業務改善で、教師が児童生徒に関われる時間の確保のためにノー部活デーなどの取組がされているが、実際に先生方はまだまだ大変だと思う。引き続き取組を進めてほしい。 ●学校やPTAなどで子育てに関してなど必要な講演会等を計画しても参加者が少ないなどの課題もあると思う。家庭教育と学校教育の境がわかりにくくなっており、保護者意識の改革もいると思うが、学校現場、教委事務局ともに引き続き努力してほしい。	A

平成27年度(26年度事業対象) 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

基本目標 5 健やかな心と体を備えた人づくり

- 実践目標 (1) 健康教育の充実
 (2) 教育活動全体を通じた道徳・人権教育の確立
 (3) 生徒指導支援体制の確立

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標(意図や達成度を示す指標) ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
<p>(1)-①宍粟市学校園所食育推進委員会の機能を充実させ、中学校区で保・幼・小・中が連携した食育を推進します。 (1)-②「早寝・早起き・朝ご飯」啓発活動を推進します。 (1)-③新体力テストを実施し、児童生徒の体力向上に向け、指導方法の工夫・改善を図ります。(しーたんチャレンジ)</p> <p>(2)-①命の大切さを実感させる教育プログラムを推進し、思いやりに満ちた人間関係を構築します。 (2)-②体験活動を通して自立への意欲を高めたり、規範意識や自律性を育てます。 (2)-③「新しい人権教育」の研究・実践活動を充実させ、共生社会の実現に主体的に取り組む児童生徒を育てます。</p> <p>(3)-①不登校児童生徒等への支援を目的として、適応教室の機能を拡充します。 (3)-②保護者等からの子育て相談に対応するため、関係機関との連携を密にした教育相談体制を構築します。 (3)-③いじめに関するアンケートを学期ごとに実施し、子どもたちの心と体の安全・安心を確保します。</p>	<p>◆新体力テストを実施し、児童生徒の体力向上に向け、指導方法の工夫・改善を図ったか。 ◇「しーたんチャレンジ」実施率100%</p> <p>◆命の大切さを実感させる教育プログラムを推進し、思いやりに満ちた人間関係を構築したか。 ◇宍粟総合病院と連携した「命の授業」実施回数14回 ◆「共生の社会をめざして」に根ざした職員研修の実施率100%</p> <p>◆保護者等からの子育て相談に対応するため、関係機関との連携を密にした教育相談体制を構築したか。 ◇教育相談実施回数354回 ◆いじめに関するアンケートを学期ごとに実施し、子どもたちの心と体の安全・安心を確保したか。 ◇学期毎のいじめに関するアンケート実施率100%</p>	<p>(1) 健康教育の充実 ・新体力テストをすべての小中学校で年間2回実施し、児童生徒の体力・運動能力についてきめ細やかな実態把握を行うとともに、運動の必要性に対する意欲付け、啓発の機会とした。(しーたんチャレンジ) 来年度以降は幼稚園・保育所にも取組を拡大していきたい。</p> <p>(2) 教育活動全体を通じた道徳・人権教育の確立 ・「命の授業」は14回の実施となった。各小中学校からは実施希望が多数上がってくるが、宍粟総合病院看護師の協力が必要であり、対応には限界がある。事業の実施方法について検討を行う必要がある。 ・「新しい部落史」に基づいた人権学習については宍粟市人権教育推進検討委員会で検討を加えた必修の題材やテーマに基づき、着実に実施している。また、「共生の社会をめざして」を利用した職員研修は夏季休業中に必須で実施している。</p> <p>(3) 生徒指導支援体制の確立 ・今年度より、児童生徒支援スーパーバイザーを学校教育課内に配置し、教育相談に対する対応力を劇的に向上させた。今後も教育相談業務だけに止まらず、支援を必要とするこども・保護者に対して適切な支援を行えるよう取り組んでいく。 ・いじめに対してはアンケートを学期毎に確実に実施し、早期発見・早期解決に努めている。今後も学校現場に対してよりきめ細やかな支援を行えるよう取り組む。 ・宍粟市いじめ防止条例およびいじめ防止基本方針を策定した。これらに則って学校・教育委員会事務局がいじめに対して組織的な対応を実施できるよう環境を整えた。</p>	<p>A</p>	<p>●いじめ対応について、組織的な対応ができるようにすることも大事だが、学校が早く気付く感性も問われるところだと思う。人権にも関わる問題でもあり、研修の大きな柱として取組んでほしい。</p> <p>●いじめ報告案件についてはいずれも学校の早期対応で解消されているとのことだが、経過観察の強化をしてもらいたい。</p> <p>●「命の授業」ととても良い取組だと思う。講師として公立宍粟総合病院看護師に依頼されているが、業務繁忙で日程調整も大変だと思う。例えば、在宅看護師や看護師OBなどの講師登録制を取り入れ、より多く授業ができるような工夫も検討したらどうか。</p>	<p>A</p>

平成27年度（26年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 宍粟の生涯学習

基本目標 1 生きがいをもって学べる生涯学習の推進

- 実践目標 (1) みんなが参加できる生涯学習の推進
 (2) 学んだことが地域で活かせる事業の推進
 (3) 学んだことがみんなに広がる取組の推進
 (4) みんなが利用しやすい生涯学習施設の整備と充実

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標に対する推進方針	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①高齢者大学、成人大学（講座）、青い鳥・くすの木学級等、目的に応じた学習機会の提供と充実に努めます。 (1)-②宍粟市民大学（生涯学習パスポート事業）のメニューを充実させ、生涯にわたる“学び”をサポートします。 (2)-①生涯学習センター登録団体制度を活用するなど、学びを続けるグループの活動や、その集団づくりを支援し、地域づくりのリーダーとなる人材の育成・支援に努めます。 (3)-①市民が生涯学習に参加したり、自ら実践したりするきっかけづくりのため、文化展等を市内各地で積極的に開催します。 (3)-②波賀歴史伝承の家や家原遺跡公園の体験工房等で、高齢者や子どもたちの交流事業を実施し、地域文化の伝承を推進します。 (4)-①市民が生涯学習センターを安心して利用できるよう、老朽箇所の修繕と安全管理に努めます。	(1) -① 高齢者大学学生数：1,189人 (1) -② しそく学びパスポート所持者数：180人 (2) -① センター登録団体数：70団体 (3) -① 文化展入場者数：6,643人 (3) -② 波賀歴史伝承の家利用者数：181人	高齢者の生きがいや地域活動への参加を促すために、市内の4高齢者大学において、一般教養・健康・人権等のさまざまなテーマで講座を実施し、自己の教養や学生相互の交流を深める機会を提供した。各大学とも受講生が減少する傾向にあり、学習ニーズやテーマの検討、各大学間の交流等が課題である。 市民が自己の関心や目的に応じた自主的な学習活動に取り組む機会を提供するため、「しそく学びパスポート」を発行し、宍粟市民大学を開催した。26年度には、学士以上の受講生の意見交換会を設け、今後の取組について前向きな意見をいただいた。 各生涯学習センターでは、登録団体により自主的に生涯学習活動に取り組む団体の支援を行っている。団体によっては、高齢化や会員の減少があり、とくに成年世代の会員の参加が課題となっている。	B+	●高齢者大学の学生の減少について、就労されている元気高齢者が増えているなど、やむを得ない状況もあると思うが、魅力ある大学づくりでできる限り減少しないよう努力してほしい。 ●高齢者大学は学習することはもちろんだが、多くの方と交流できることも大きな魅力の一つである。学生の学習ニーズの把握も必要だが、学生が自主的に活動できる内容、また準備など学生ができることは学生自身がするなど、主体的に動けることでより活発になると思うので検討してほしい。	B+

基本目標 2 人権を尊重するまち、子どもや青少年が健やかに育つ地域づくり

- 実践目標 (1) 地域や学校園所・関係機関と連携した人権教育の推進
 (2) 人権を尊重した地域づくりや交流事業の推進
 (3) 人権教育の推進と啓発活動の充実
 (4) 地域で子どもを育む体験活動の充実
 (5) 家族や親子で体験できる活動の充実
 (6) 青少年健全育成リーダーの発掘と資質向上研修の推進
 (7) 家庭や地域・学校園所と連携した子どもと青少年の学習の支援

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①生涯学習推進協議会と連携し、自治会等での人権啓発・人権学習を推進します。 (1)-②自治会での人権学習の成果を実践発表する場を設けるなど、地域での情報共有や交流を大切に人権学習を進めます。 (2)-①各地域で人権啓発ビデオによる市民参加型研修会や講師による講演会などを開催し、人権意識の高いまちづくりを推進します。 (3)-①人権啓発は通年実施し、特に差別をなくそう市民運動推進月間(8月)と、人権週間(12月)には講演会等を開催し、啓発活動を充実させます。 (4)-①青少年体験活動プログラムにより、地域の自然や歴史を学ぶ活動や地域サポーターとの交流事業を実施します。 (5)-①家族や地域住民、子どもたちの参加型講座として、生涯学習センターにおける夏休み体験講座等を開催するとともに、その内容を充実を図ります。 (6)-①合宿型体験活動では学生や地域サポーターの参加を募り、リーダーの発掘と育成に努めます。また、リーダー養成研修会を開催し、指導力の資質の向上を図ります。 (6)-②地域の子どもの会役員を対象に安全指導研修会を開催し、地域教育支援の強化に努めます。 (7)-①放課後子ども教室を開催し、異年齢の子どもの交流や居場所づくりに努めるとともに、地域ボランティアが主体となり事業運営を行うことで地域活力の創出を促します。	(1) -①・②、(2) -① 生涯協研修会等活動回数：167回 (3) -① 市民運動推進月間（週間）事業・人権の夕べ参加者数：800人 (4) -①・(5) -①・(6) -① 青少年体験活動参加者数：289人 (7) -① 放課後子ども教室・土曜チャレンジ学習事業参加者数：14,220人	一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を旨として、各地区の生涯学習推進協議会や自治会において、人権教育をテーマとした研修会や学習会を実施し、参加型学習や意見交換などで学習を深めることができた。また、年度末に一年間の活動の実践発表会が開催され、取組の振り返りと情報交換、相互交流の機会となっている。 人権学習会の参加者の固定化傾向が見られることから、誰もが参加しやすい学習会の進め方やテーマの選定が必要である。 「差別のない明るい住みよい宍粟市」の実現のため、人権の夕べ講演会やヒューマンライツ・コンサートを開催し、人権意識の高揚の啓発を行った。また、各生涯学習事務所においても、人権尊重をテーマとした講演会・映画会などを実施している。 学遊館のチャレンジ5DAYS、一宮の異年齢交遊塾において、宿泊型体験活動を実施し、青少年が学校や学年の枠を超えて生活を共にし規律ある生活習慣を身につけるとともに、学生リーダーとの交流を深める機会を提供することができた。小学生時代に活動に参加した学生が、指導リーダーとして参加する場合も出てきたようである。少子化による参加者の減少や、地域指導員の確保が今後の課題である。 放課後や土日、長期休暇を活用し、地域のボランティアの指導による学習やスポーツ、体験活動などの教室を市内11教室で実施し、子どもと地域住民の交流により地域の活力を創出することに寄与できた。	B+	●人権教育について、例えば閉校となった学校の教室を使用して行うなど、住民にとって身近な場所で行うことで参加しやすいこともあると思う。検討してほしい。 ●昔に人権の授業で習った時の本や資料、またその他の人権資料など、散在しているものを集約して空き施設で展示等ができたなら、それを見てもらうことで、学習意欲や興味をそえられるということもあるのではないかと思う。検討してほしい。	B+

平成27年度(26年度事業対象) 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 宍粟の生涯学習

基本目標 3 読むこと・知ること・学ぶことを大切にされた芸術・文化活動の推進

- 実践目標 (1) 計画的な蔵書管理の推進
 (2) 図書館施設や機能の充実
 (3) 読書活動の推進
 (4) 地域の歴史・文化に関する学習や展示、講座の充実
 (5) 歴史・文化遺産の体系的な保存整理と調査研究の推進
 (6) 芸術・文化活動の振興

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標(意図や達成度を示す指標) ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①図書館利用者のニーズ把握に努め、蔵書の充実や資料収集に努めます。 (2)-①蔵書検索システムの周知や、図書館だよりでの新刊紹介等、利用者の利便性の向上を図ります。 (2)-②市民ニーズに応えるため、移動図書館車の運行を充実させます。 (3)-①研修会を開催し、読書ボランティアの育成に努めます。 (3)-②ブックスタート事業により、図書館司書が本との出会いを支援します。 (4)-①市民が宍粟の歴史・文化にふれる機会として宍粟学講座を開催します。 (5)-①宍粟の歴史・文化資料の研究と整理を進め、歴史資料の保存に努めます。 (5)-②文化財所管者や伝統民俗芸能保存団体への活動助成等、文化遺産の保存や保護、継承を支援します。 (6)-①市民が芸術や文化にふれたり、取り組んだりする契機となるよう、美術展等を開催します。 (6)-②文化活動の拠点である山崎文化会館が安全かつ快適に利用できるよう、維持管理に努めます。	(1)-① 市立図書館(各生涯学習事務所図書室含む)の蔵書数: 140,631冊 (2)-② 移動図書館車の運行: 63日 (3)-② ブックスタート事業の実施: 21回 (4)-① 宍粟学講座の回数: 6回 (5)-② 伝統民俗芸能保存団体数: 23団体 (6)-① 宍粟市美術作品展の入場者数: 1,980人 (6)-② 文化会館入館者数: 104,824人	平成26年度には、市町村振興協会図書整備支援事業交付金を活用して、前年度より6,920冊増加し、蔵書数は140,631冊となった。また、移動図書館車の巡回地域を増やし、図書館を利用しにくい地域の方にも図書に親しんでいただくよう努めた。市立図書館は、手狭となっているが、利用者の利便のためのサービス向上を図ることを検討している。 市民が宍粟市の文化財や歴史に触れる機会を提供するため、播磨国風土記や黒田官兵衛に因むテーマを中心に、宍粟学講座を6回開催した。市内の歴史資料の集約や伝統民俗芸能保存団体の後継者の育成が今後の課題である。 市内の各地区において、美術作品展等を開催し、創作意欲の向上と市民が広くかつ身近に芸術作品に触れる機会を提供した。また、平成26年度より、芸術文化奨励金制度を創設し、全国レベルの展覧会等で入賞された方に交付を行った。 山崎文化会館の入館者は、公演内容によって差が生じるため、安定したイベントや公演の工夫が必要である。また、文化会館は老朽化が進んでいるため、年次計画的に施設の改修を実施しており、平成26年度はトイレの改修を行った。	B+	●千種では千種小学校に隣接して認定こども園が建設され、それに図書館も併設される。地域住民も集いやすく、また子ども達の様子も見ることができ、子ども達にとっても大変良いことだと思う。これまでできなかった図書館への車両での乗りつけもでき利用促進にもつながると思う。 ●図書館をよく利用するが、新書も増え司書もとても親切に対応いただけ、家庭的な雰囲気でも利用しやすい。スペースの問題もあるが、もう少し閲覧スペースがあって、椅子に腰かけて読める場所などがあれば、より利用者も増えると思う。今も各図書室で工夫されている、一層の工夫を検討してほしい。 ●他市町の図書館で、児童・生徒が宿題をすることを許可している例がある。少子化の中、中高生が勉強している姿を見ることは子ども達にとっても良い刺激になると思うので、頭からはねるのではなく考えてほしい。	B+

基本目標 4 「元気な宍粟」の実現をめざした生涯スポーツの推進

- 実践目標 (1) 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の支援
 (2) 競技スポーツの強化と振興の支援
 (3) 地域資源を活かしたスポーツ環境の充実
 (4) 安全に活動できるスポーツ施設の整備

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標に対する推進方針	◆成果指標(意図や達成度を示す指標) ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
(1)-①高齢者や障がいのある方の健康づくりに資するよう、スポーツ施設使用料の減免を図ります。 (1)-②市民の健康づくりや管理のため、関係機関と連携した運動指導に努めます。 (2)-①幼少期から競技スポーツを身近に感じる環境づくりのため、高校野球予選会やカヌー競技の誘致に努めます。 (2)-②スポーツ奨励金を交付し、選手の育成を支援します。また、その方々に技術指導や講演会を依頼し、後進の育成を図ります。 (3)-①宍粟固有の地域資源である宍粟50名山やスキー場、カヌー場等を活用したスポーツの振興を図ります。 (4)-①各スポーツ施設の特性を活かせるよう、利用計画の調整や利用環境の改善に努めます。	(1)-① 高齢者の利用については2割増となった。 (1)-② 宍粟市スポーツ推進委員研修会において、地域包括支援センターとの連携により「いきいき百歳体操」の取り組みについて理解を求め研修を行なった。 (2)-① 高校野球秋季大会予選に於いて「メイプルスタジアム」の利用、「音水湖カヌー競技場」については、国体近畿予選・高校総体予選等の利用について実績を積んでいる。 (2)-② 1団体、32人に交付 (3)-① 50名山登山については観光担当で推奨している。スキーやカヌーについては、それぞれ教室を開催し利用促進に努めている。 (4)-① 年間利用計画については市内各団体と調整し、施設利用をスムーズに行なっている。また、山崎スポーツセンター第1グラウンドについては、フェンスやバックスクリーンの改修を行ない施設の長寿命化に努めた。 H26 スポーツ施設利用者数 152,350人	スポーツ施設使用料減免(中学生以下、65歳以上の高齢者、障がい者の使用料減免)の導入で、前年度より利用者数1割増となった。年齢やライフスタイルに応じたスポーツを楽しむ生涯スポーツの機会を提供することによる利用者の増加も要因としてあげられる。 宍粟市スポーツ推進委員会において、高齢者支援としての体操教室の研修や、広域的な研修会に参加し知識と技術の取得に努めることができた。また、既存イベントである宍粟市さつきマラソン大会・ロードレース大会等を通じ、地域づくりや参加者の健康づくり、都市部との交流等に寄与することができた。 全国大会規模以上の大会に出場する団体や個人選手に奨励金を交付し、市内のスポーツ選手の競技意欲の向上や育成を支援することができた。 音水湖を利用したカヌークラブによるカヌー体験教室や、自然、文化コースを取り入れたウォーキング大会等を実施し、宍粟市の地域資源を活用したスポーツ活動を行なうことができた。	B+	●スポーツ奨励金について、芸術文化奨励金も含めて制度周知が不十分だと思う。もっとPRが必要だと思う。	B+